

福岡市総合計画審議会 総会
会議録

日時 令和6年8月20日（火）13時00分

場所 TKPガーデンシティPREMIUM天神スカイホールメインホールAB

出席者（五十音順、敬称略）

青野 正志（代理出席 伊藤）

石丸 修平

上田あい子

片渕 輝昭

菊池 仁志

久保 文一

近藤 里美

張 彦芳

辰巳 浩

中村 弘峰

福田まもる

星野 幸代

馬奈木俊介

森川 春奈

朝廣 和夫

稲員 稔夫

鬼塚 昌宏

勝山 信吾

木村てつあき

呉羽 由美

坂井 猛

調 崇史

田中たかし

西山 久子

藤村真由美

堀内 徹夫

三浦 暢久

石堂 高大

猪野 猛

貝和 慧美

金谷 明倫（代理出席 山口）

櫛山 道太

黒瀬 武史

清水 邦之

高木 智代

徳永 美紗

萩島 理

古川 清文

松岡 恭子

水木 祐一

福岡市総合計画審議会 総会

〔令和6年8月20日（火）〕

開 会

1 開会

○事務局（高橋） それでは、定刻となりましたので、ただいまより福岡市総合計画審議会総会を開会いたします。私は事務局の福岡市総務企画局企画調整部長の高橋でございます。本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は報道関係者がいらっしゃいます。報道関係の皆様にお願いがございます。会議の円滑な進行のため、カメラ等の撮影、取材は委員の皆様の自由な発言、議論の妨げとならないよう十分御配慮をお願いいたします。

なお、本日もYouTubeによるLive配信を行っております。

それでは、まず、会議の開催に当たりまして、副市長の光山より御挨拶を申し上げます。

○光山副市長 皆様、こんにちは。副市長の光山でございます。本日は大変お忙しい中、また、大変お暑い中、総合計画審議会にお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

開会に当たりまして、一言御挨拶をさせていただきます。

4月の総会におきまして、新たな基本計画の素案を諮問させていただきました。その後、生活の質部会、さらには都市の成長部会、この二つの部会でそれぞれ3回ずつ、合計6回の部会を開催していただきました。また、その中で大変御熱心に審議をいただきましたことを心より感謝を申し上げます。

審議の際におかれましては、Well-being、それからダイバーシティ&インクルージョンなど近年ますます重要視されております価値観、それから方向性といったものを計画に盛り込むこと。また、社会全体で子どもや若者を育み、次代を担う人材をしっかりと育てていくこと。また、交通や住宅など市民生活に不可欠な社会インフラの質を高めていくこと。また、経済や災害対策など様々な面で九州との連携を深めていくことなど、幅広い分野につきまして皆様の貴重な御意見をいただいたところでございます。

昨年度、多くの市民の皆様からいただいた御意見を基に、このマスタープランの素案というものを取りまとめました。それを委員の皆様の御精力ある御審議をいただきまして、さらに磨きがかかったと思っております。10年後、20年後の福岡の未来を形づくっていく計画でございます。さらに魅力的なまちにしていくための計画として完成しつつあるのではないかと考えている次第でございます。

本日の議題は、計画の原案となっておりますが、今後、パブリック・コメントを実施いたしまして改めて市民の皆様の声をいただいた後に、再び部会、さらには総会を開催させていただ

きまして、計画の完成に向けてしっかり取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き委員の皆様方の御尽力を賜りますことをお願いいたしまして私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） では、最初に、お手元の資料を確認させていただきます。資料の右肩に記載しています資料番号を御覧いただき、資料1から4がお揃いか御確認ください。全てお手元にございますか。不足がある方や、本日、委員個別のファイルをお持ちでない方は、事務局職員までお申し出ください。

本日の資料も、お手元のファイルに綴じて事務局で保管することも可能でございます。また、後日郵送でお届けすることも可能ですので、詳しくは会議の最後に御案内いたします。

なお、委員の皆様の御出席状況は、お手元の配席表にて代えさせていただきます。

それでは、ここからは会長に進行をお願いしたいと思います。

萩島会長、よろしくお願いいたします。

2 議題

○萩島会長 それでは、ここからは私、萩島が進行役を務めさせていただきます。

本日は、二つの部会、生活の質部会、都市の成長部会でそれぞれ審議いただいた経過を踏まえて、一旦計画の原案を取りまとめする場ということです。それを総会として開催するということになっております。

それでは、まず最初に、事務局より本日の審議事項について説明をお願いします。

○事務局（染井） ありがとうございます。総務企画局企画課長の染井でございます。それでは、私から御説明いたします。

では、まず、お手元の資料1を御覧ください。まず、今後のスケジュールでございます。

真ん中より少し下、赤い枠で囲んでおりますけれども、そこが本日の総会でございます。本日はこれまで3回ずつ御審議をいただきました両部会の総括と、計画の原案について御審議をいただきたいと考えております。その後、9月からパブリック・コメントを実施しまして、市民の皆様の御意見を踏まえ、原案を修正いたしまして、10月の部会で最終調整を行い、11月に答申をおまとめいただくという流れを予定しております。

なお、ここには記載しておりませんが、現在、基本計画と並行して検討を進めております実施計画、通称、政策推進プランにつきましても、10月の部会、また、11月の総会におきまして検討状況を御報告できればと考えているところでございます。

資料1につきましては以上でございます。

続きまして、資料2をお願いいたします。こちらは前回の部会で御説明した資料と同じもの

でございますけれども、総合計画と分野別計画の全体像を改めておさらいの意味で今回お配りをしております。

ポイントを振り返りますと、現在、本審議会で御審議をいただいております基本計画は、左側に書いておりますとおり、方向性を示すものでございまして、具体的な取組みにつきましては、その下でございます実施計画、あるいは各分野別の計画の中でお示ししてまいりますので、これまでの部会でいただいた御意見、そして今後いただく御意見につきましても、こういった計画の全体像の中で、どのレベルにこういったものを反映していくかということを引き続き検討してまいりたいと考えてございます。

資料2については以上でございます。

続きまして、資料3を御覧ください。こちらは、これまでの総会、また、部会でいただいた御意見を反映してまいりました現時点の素案修正案でございます。

表紙に記載しておりますとおり、前回の御意見を反映した部分は朱書きのアンダーライン、それ以前の修正箇所は黒字のアンダーラインでお示ししております。本日はこれまでの両部会の総括でございますので、これまで御審議いただいて修正してまいりました主なポイントを改めて順に御説明いたします。

それでは、1ページを御覧ください。

こちら計画策定の趣旨につきましては、4月の総会で主に御意見をいただきました。修正を示しておりますアンダーラインもかなり多くなっておりますけれども、特に三つ目の丸、「一方で」と始まるところでございます。気候変動、脱炭素、Well-being、ダイバーシティ&インクルージョンなどの要素をしっかり盛り込むべきといった御意見をこちらに反映させていただきました。

また、世界や日本の情勢に加えまして福岡市の課題も示すべきといった御意見もいただきまして、四つ目の丸のところですが、単独世帯の増加ですとか、国際競争力が高いビジネス環境の創出といった福岡市の特性を踏まえた課題を追記しております。

4ページ、5ページを御覧ください。

こちらは広域的な役割ということで、中でも九州における福岡市の役割につきまして、福岡市と九州各県が、防災や経済といった様々な面で支え合うという視点での御意見をいただきました。その中で、4ページにお示ししておりますけれども、双方向で人の動きがあることを表した図を加え、また、5ページの上段の①九州における役割というところにも、福岡市に集った人材を通して、九州全体の活力維持につなげていくというような文言を加えたところでございます。

8ページ、9ページを御覧ください。

こちらは計画推進に当たっての基本的な考え方でございまして、まず、8ページの(1)の①に記載しておりますが、まちづくりの主役は市民ということ、多様な主体と連携していくと

いうこと、また、③のアのところに記載しておりますけれども、社会経済情勢や市民ニーズの変化にスピード感を持って的確に対応していくということですか、次の9ページ、一番上の④のところに記載しておりますけれども、デジタルなど最先端技術を活用するということにつきまして、個別の政策分野の御審議の中でも御意見を様々ないただきましたけれども、全ての分野に共通する考え方ということで、ここに総論として集約をしているところでございます。

11ページを御覧ください。ここからは分野別目標になります。

これまでの部会におきましては、複数の分野に共通する要素についての御意見を多くいただいていたと考えております。例えば、生活の質の一つの分野に書いてあることですが、これは都市の成長にもつながるという視点が必要ではないかですか、もちろんその逆も同様でございます。あるいは生活の質の中におきましても、自然や安全・安心といった複数の分野に重なってくるような視点につきまして、この分野だけではなく、こちらにも入れるべきではないかという御意見をいただいております。

この点、前回の部会で指標についての体系をお示しする中で、一つの例として、都心の森1万本プロジェクトという事業を例示いたしました。身近な緑を増やしていくという取り組みでございますけれども、これが目標4の市民が身近に潤いや安らぎを感じるという分野にも当然つながりますし、同時に、目標6の都心部の魅力向上という分野にもつながるといったお話を前回いたしまして、一つの事業が複数の分野で相乗効果を生み出していくということを御説明したところでございます。

このように複数の分野に目的、効果を持つような事業につきましては、先ほど資料2で少し触れました実施計画の中で、それぞれの分野に事業を再掲して、分野と分野が横でつながっていることが明確に意識されるよう、この先、引き続き整理してまいりたいと考えております。

また、この基本計画におきましては、先ほど8ページ、9ページのところでも少し触れましたけれども、全ての分野に共通する考え方は総論としてお示ししております。また、今、御覧いただいております11ページの3行目から4行目にございますが、各目標は相互に密接不可分な関係にあり、それぞれを独立したものとして捉えるのではなく、関連する目標との間で相乗効果が生まれることを目指して取り組みを進めるという考え方を示すことで、複数の分野にまたがる要素について同様の視点を持ってしっかり取り組んでいくことを表しております。

12ページ、13ページを御覧ください。

(2)の市民意識というところが朱書きになっております。前回の部会から修正をしておりますけれども、この点につきましては、後ほど資料4で御説明いたします。

13ページの施策1-2につきましては、かなりアンダーラインが入っているところでございますけれども、当初、諮問させていただいた時点の素案では、この1-2はどちらかといいますと高齢者の健康づくりや社会参加に寄った内容となっておりますが、働きやすさという視点の御意見を複数いただきました。そういった中で、より幅広く仕事や文化芸術、スポー

ツなど様々な分野で生きがいを持つという内容にブラッシュアップされたと考えておりまして、まさに市民一人一人のWell-beingを高めていくような施策になったと考えております。この点につきましても、これから実現していくための具体的な取組みを検討してまいりたいと考えております。

14ページ、15ページを御覧ください。

こちら目標2につきましては、施策の順番などについてかなり御審議をいただきました。その中で、社会全体で子どもを見守ることが重要という御意見をいただきまして、施策2-1がそうした趣旨であると分かるように見出しの修正などを行っております。

また、2-3の教員が子どもと向き合う環境づくりとか、2-4の若者のまちづくりへの積極的な参画を促すことなど、御意見を反映してまいりました。

さらに教育分野におきましては、アクティブラーニングなど、将来の人材育成につながる具体的な取組みについても御意見をいただいております、実施計画の中で引き続き検討を進めてまいります。

16ページ、17ページを御覧ください。

目標3は、まず、16ページの下、現状と課題の③のところに、住宅について、老朽化などの状況に応じた適切な管理、更新を図っていく必要があるのではないかといった視点の御意見をいただきました。

また、右側、17ページですが、施策3-3に関しまして、防災に関する御意見も多数いただいております、ここには、防災・危機管理体制や地域防災力の強化、避難環境の充実、他都市や関係機関との連携など、平時からハード・ソフトの両面で被害を最小限に抑える災害に強いまちづくりを進めるといった方向性を示しております。

このほかにも具体的な取組みの御提案もいただきまして、災害から避難する際の障がい者への支援、あるいはマイノリティーへの支援、また、防災訓練のあり方などの御意見もいただいております。また、施策3-1の地域コミュニティの活性化につきましても、具体策はどうなっているかといった御指摘があり、施策3-4につきましては、療養環境という視点の御意見もありました。こういったところにつきましては、実施計画の中で具体的な取組みを引き続き検討してまいります。

18ページ、19ページを御覧ください。

ここは自然などをテーマにした分野でございます。この分野では、生物多様性の保全・回復・創出、そういった視点でいただいた御意見を反映したところでございます。また、この分野にとどまらず、先ほど都心の森の例も申しましたけれども、自然ということが他の分野にも影響を及ぼしていくという御意見もいただいたところでございます。

20ページ、21ページを御覧ください。

こちらは観光などの分野でございます。歴史資源に関する文言の修正、また、美術館や博物

館などを資源として示してはどうかといった御意見を反映しております。

また、こちら具体的な取組みとしまして、例えばサステナブルツーリズムというような視点の御意見もいただいております、こういったところも引き続き検討を進めてまいりたいと考えてございます。

22ページ、23ページを御覧ください。

この分野におきましては、特に23ページの施策6－3、交通施策に関する御意見をかなり多くいただいたと考えております。こちらの基本計画では、大きな方向性ということで、持続可能な総合交通体系を構築するという表現をさせていただいておりますけれども、交通施策にしましては、先ほど資料2でも分野別計画ということでお示ししましたが、都市交通基本計画というものも現在検討を進めているところでございまして、そういった中で具体的な取組みも含めて引き続き検討をしてまいります。

また、6－1に関連しまして、都心部のグリーンビルディングといった御意見もいただきましたので、実施計画の中で検討を進めてまいります。

24ページ、25ページを御覧ください。

ここでは、スタートアップと地場企業や学生などとの連携といった視点、また、中小企業や伝統産業が抱える後継者不足などの課題について加筆するようにということで御意見をいただき、反映したところでございます。

また、7－2の農林水産業のところですが、都市型農業への支援など、農業や漁業の振興に関する具体的な取組みについても御意見をいただいたところでございます。そういったところも引き続き検討をしてまいりたいと考えております。

26ページ、27ページをお願いいたします。

この分野におきましては、まず、港湾に関する記述で少し言葉が足りていないのではないかなという趣旨の御意見をいただきまして、現状と課題の①の部分ですとか、施策8－1の部分にも加筆をしたところでございます。

また、施策8－2のグローバル人材というところですが、ここの具体的な取組みとしまして、学校や住宅などの環境整備が必要という御意見もいただきました。その辺りも実施計画の中でしっかり検討してまいりたいと考えているところでございます。

28ページ、29ページを御覧ください。

ここからは空間構成目標でございまして、まず、市街化調整区域の課題や目指す姿、こういったものを示すべきではないかなという御意見をいただきまして、28ページの（1）の上から四つ目の丸のところに課題を加えております。

また同様に、29ページになりますけれども、下から二つ目のところですが、農山漁村地域の目指す姿も書き加えたところでございます。

それから、29ページの日常生活圏というところが少し分かりづらい文章になっているという

御指摘をいただきまして、表現の修正をさせていただいたところでございます。

そのほか、30ページ以降にも空間構成目標に関してはいくつか文言の整理などを行っておりますけれども、大きな修正ではなく、表現の加筆などだったというふうに考えております。

少し飛びまして、38ページ、39ページをお願いいたします。

こちら、区のまちづくりの目標でございます。まず、すべての区に共通する御意見としまして、各区の取組みの方向性の冒頭に示しております目標です。例えば東区ですと、39ページの一番上に、「豊かな自然環境と歴史、文化に育まれた、活力を創造するまち・東区」というフレーズがございますけれども、この部分の書き方にやや統一感がないということで御指摘をいただきまして、各区でできるだけ統一感を出すように修正をしたところでございます。

また、同じく全体的なバランスの問題としまして、災害対策に関する記述のところも少し修正が必要ではないかという御指摘をいただきまして、修正してきたところでございます。

そのほか、文言を加える修正を一部行っております。

資料3につきましては以上でございます。

最後に、資料4を御覧ください。福岡市基本計画に係る意識調査という表題がついているものでございます。

前回の部会で議題とさせていただきました市民意識ということにつきまして、皆様から前回両部会でいただいた御意見を踏まえまして調査票の案を作成しております。次回、10月の部会におきまして調査結果を御報告したいと考えておりますので、本日、御意見をいただいた上で、近日中に調査を実施したいと考えております。

調査票のまず1ページでございますけれども、上から調査の目的、回答方法、そして3番、備考ということでまとめております。

2番、中段の回答方法のところですが、回答いただく市民の皆様の環境であったりお好みに応じて、郵送、オンラインのいずれか選んでいただけるようにということで、こちらも前回いただいた御意見を反映させていただいたところでございます。

また、下段の備考欄のところに調査対象者ということでお示しをしております。住民基本台帳から18歳以上の市民4,500人を無作為に抽出するというので、これは、これまで福岡市で市政に関する様々なアンケートがございますが、その辺りにつきまして、統計学上の観点から信頼がおけるサンプル数ということで、このような調査形態を取らせていただいております。

この点につきましては、前回、主に二つの視点で、調査対象について御意見をいただきました。

一つは、この後、設問も出てまいりますけれども、設問の分野ごとに調査対象をターゲットングしてはどうかという御意見をいただきました。この点、検討させていただいたんですけれども、例えば、子ども施策だから子どもがいらっしゃる人に聞くという考え方もあろうかとは思いますが、そういった要件を定めてしまうと、そこを満たさない方を、ある意味、無関係

な人ということで排除するようになってしまうのもいかがかと思ってございまして、分野によって関係性の濃淡はもちろん、お答えいただく方によってあると思っておりますけれども、全ての市民の皆様のためのまちづくりということで、全ての市民の皆様の中からの無作為抽出が適当だと判断してございます。

また、もう一つの視点としまして、通勤されている方ですとか観光客といった市民以外の方の声も聞くべきではないかという御意見もいただきました。こちらにつきましては、今申しましたとおり、調査対象を、市民の場合は住民基本台帳から抽出するという技術的な方法がございまして、市民以外の方となったときに、どのようにしてそういった対象者を抽出するのか、また、それが統計的に信頼できる調査として安定的に実施できるかといった技術的な課題もございまして、そういったところも踏まえまして、ここだけではなく、実施計画、分野別計画などでも、例えば観光分野におきまして観光客の方の声を聞くということもあろうかと思っておりますので、引き続き効果的な調査方法を検討してまいりたいと考えております。

2ページを御覧ください。

前回、計画に掲げる目指す姿が八つの分野に三つずつということで合計24項目ある中で、この質問数を幾つにするのが適当かという御意見を皆様からいただきました。その中で、御回答いただく市民の負担であるとか、あるいは、最後まで集中力が持続するかといったことも含めまして、全体としては質問数を集約する方向の御意見を多くいただいたというふうに受け止めております。

一方で、要約したような文章にしてみると抽象的で分かりづらくなってしまわないか、必要なニュアンスが漏れるのではないかという御懸念もいただきましたので、こういった御意見を総合しまして、御覧いただいておりますとおり、質問数は八つに集約しつつ、目指す姿に合わせて24項目の視点をこちらに一つずつお示しすることによって、いただいた御意見に対応できる調査票になったのではないかと考えているところでございます。

また、3ページに移りまして、一番上に回答理由などを具体的に記述できるようにという御意見をいただきましたので、そういう意味で自由記述欄、現状の第9次基本計画の調査の中ではこういった欄がございませんけれども、今回、こういった欄も設けまして、より幅広く御意見を出していただけるような取組みを進めていきたいと考えております。

また、その下には回答者の属性ごとのデータを取って、いろいろな集計、分析ができるように、年齢、性別、住所など、チェック欄を御用意しております。この点も、引き続き集計や分析の方法などを検討してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○萩島会長　ありがとうございます。

かなりボリュームがありましたけれども、今の説明にありましたように、本日、計画の原案

を審議いただきますけれども、パブリック・コメントの手続後に再び皆さんで御審議いただく機会はあるということです。この場で結論が出ないことについては、そういう意味では、10月以降にも引き続き検討ができるということを最初にお伝えしておきたいと思います。

それでは、今の御説明につきまして、御意見や質問がある方は挙手でお知らせください。

○委員 これまで3回の部会で協議を重ねてきましたが、本日の素案修正案にも、全く私の基本的な主張が取り入れられてないので残念に思います。

改めて申し上げますと、目標の1から8までにすべて掲げられているSDGsは本市自身が掲げているわけですね。ところが、この間ずっとただしていけばいくほど、本気でこのSDGsの目標を達成しようとする気がさらさらなくなることが部会の審議の中でも明らかになりました。

SDGsは17の目標を掲げ、それにひもづく169のターゲットの達成を目指すものです。それを本市が掲げているのは、国や地域で具体化すべきというSDGsの理念に基づくものではありますが、今回の素案では、それをすべて市民意識に変えてしまって、施策の具体的、客観的な達成目標は見えません。

市民意識という主観的評価については、いわゆるWell-beingを使おうというわけですが、これを政策に取り入れる際には、その信頼性、妥当性について注意しなければならないと本市の外郭団体であるアジア都市研究所が強調していることも指摘してきましたけど、素案は全くそれを無視しています。

そもそも今回の計画素案は、現基本計画、第9次における生活の質の向上と都市の成長の好循環をそのまま踏襲することで強引に突っ走っています。その戦略が正しかったのかというまともな検証をする気が見えませんし、それに異論を述べてきた私の意見には耳を貸す態度が見えません。

以上を前提に、少し具体的な意見を申し上げます。

本市が強引に進めている間違ったやり方が露呈しているのが、先ほど紹介のありました資料4です。市民意識調査票です。これだけをもってパブリック・コメントとするということは、ちょっとびっくりです。もっと大がかりなパブリック・コメントをやるんだと思っていました。

2ページに、八つの目標についてのチェック表となっていますが、例えば目標7ですけど、「新たな価値が生まれ、経済に活力があるまちづくりが進んでいると思いますか」という質問ですが、その下にある視点には、「市内の様々な企業に活力ある」「新鮮でおいしい農水産物」「多様な人材が集まっている」と書かれており、いずれも肯定的な書き方なんです。

ところが、それに関連する資料3の素案修正案の24ページには何と書いてあるかというと、現状と課題のところで4項目書いてありますけど、①では、市内事業者については、慢性的な人手不足、後継者不足、担い手の減少・高齢化、②では、農林水産分野での担い手不足、経営の厳しさなどを課題として挙げておられるわけですよ。それらの課題がどのように今後進んで

いくべきかを検証していくこと自体が、この基本計画に基づく推進の仕方だと思うのだけど、それを根拠とすべき指標は全く見受けられません。

第9次の現基本計画では、例えばこの分野においては、新設事業所数はいくつかということなどを客観的な指標としてきているわけです。それを素案では、経済に活力あるまちづくりが進んでいると思いますかと市民に聞いた数字で、一体これ何を把握しようとしているのか全く理解ができません。これがマスタープランなんでしょうか。

我々審議会委員は、10年後の福岡を見据えて、よいまちにして、市民生活がよくなるようにと願って議論してきているわけです。それなのに、成果指標は100%抽象的、主観的な市民意識に置き換えられ、これまでの基本計画で現状認識として指標としてきたものはすべて政策推進プランに移すというわけです。政策推進プランは、この審議会での議論は後半の部分で少しやるというふうに先ほど報告ありましたが、さらにはこれは4年ごとに書き換えられて、基本的には議会の中で議論されるものになってまいります。そうすると、この審議会というのは何のためにあるのかというのが、非常に運営的に非民主的じゃないかなというふうに思ったりします。

そういう点の不明瞭な問題点を残したまま、これを今日で原案とすることについては承服できないことを申し上げて私の意見とします。

○萩島会長 御意見ありがとうございます。

2点あったと思います。パブリック・コメントというふうに先ほど言われたんですが、ちょっと事務局に確認したいんですが、これはパブリック・コメントとは別の話ですか。よろしいですか、ちょっと説明していただけますでしょうか。

○事務局（染井） ありがとうございます。

今、会長がおっしゃられたとおりでございまして、パブリック・コメントとして行いますのはこの資料3のほうです。今、素案修正案となっておりますけれども、これを原案として、こちらに対する御意見をいただくというプロセスを想定してございます。

資料4につきましては、それとは別で、市民意識調査ということで実施するという趣旨でございます。

以上でございます。

○萩島会長 分かりました。

あともう一点、実施計画と基本計画という二つのレイヤーがあるわけですね。資料2にもありますけれども、基本計画は、資料4に示されたアンケートに基づく評価で、定量指標は実施計画のほうで評価していくというのが事務局の案であるということ、その点はいかがですか。

ちょっと事務局から御説明いただけますか。

○事務局（染井）　ありがとうございます。

評価に関しまして、来年度以降の進行管理をどうしていくかという話にもなってくると思いますけれども、この総合計画審議会は、来年度以降も基本的には毎年、福岡市政の実施状況について、御意見をいただきたいと考えております。

毎年お示しする中では、今出ております市民意識というところだけではもちろんございまして、政策推進プランに掲げております具体的な事業、それぞれがどういった取組みをして、そこに出てくる客観的なデータがどのような結果になったかということをすべて審議会にお示しをして、毎年、必要な御意見いただきながら、しっかりPDCAを回していくということを想定しております。

以上でございます。

○萩島会長　事務局の説明と先ほどの委員の御意見と平行線のところもあるかと思うんですが、ほかの委員の方からでも、今のような点につきまして御意見がありましたらお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

お願いいたします。

○委員　今の件ですけれども、ちょっと私が思うには、まず、共通する課題ということで基本計画を立てますよね。その中で、先ほども説明ありましたが、政策推進プランで各論に迫っていくという流れだと思いますので、その辺りの整理を事務局のほうでもしていただければ分かりやすくなるのではないかなと。ちょっとごっちゃになっている部分があるのではないかと思いますので、そこをお願いできたらと思っております。

以上です。

○萩島会長　ありがとうございます。

資料2で一応整理はしてくださっているんですけど、もうちょっと情報が欲しいなというのは、会場の委員の方々からもあるかもしれません。実施計画というところがちょっと、詳細が分かりにくいということですので、そこら辺がもう少し説明が尽くされるとよろしいかなという感じですかね。

それではほかに、もちろんこの件でなくても、全体の御説明された項目、資料につきまして御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員　全体的にちょっと気になったのが、4ページ目の人口移動調査の中で、国外から転入が

1万1,303人、転出が3,487人ということで、8,000人近く国外の方が福岡市に転入していると、令和5年のみですね。かなりの海外の方が福岡には在住なのかなと思います。

この総合計画は、今後10年において、アジアにおける役割だとか、多様な人材の中には海外の方も入っているわけで、そういう方々の意見をこの基本計画にどう反映されるのかなと。

今回のアンケート、4,500人ですけれども、この中に、例えば日本語の分からない方はおられないのか。もしこれが日本語だけであれば、そういう方は回答できないということで排除されてしまうということですし、今回のこの素案も、例えば英語だとか中国語だとか多言語でもオープンにされるのかだとか、やはりこちらからそういった問いかけをしていかないと、そういう方々の意見が反映されないのかな、それでいいのかなと、その姿勢が問われるのではないのかなと思ったりします。そこら辺のお考えだとか工夫だとか、お聞かせいただきたいと思います。

○萩島会長 では、事務局からコメントいただけますか。

○事務局（染井） ありがとうございます。

今お示ししております資料4の意識調査は、確かに日本語での記載となっておりまして、この調査とは別の調査にはなってしまうんですけれども、外国籍の方を対象とした調査も別途行っておりまして、そこに多言語表記をして、どのような実感を持っておられるかというところは調査をしているところでございます。そういう点などを含めまして、外国籍の方々の御意見もしっかり聞いていけるようにしていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○萩島会長 アジアのモデル都市とうたっているからには、国際的なそういう視点は非常に重要になってくるかと思えます。アンケートはなかなか難しいかと思うんですけど、URLを追加で載せるなど、もしかしたら多少の工夫で対応ができる可能性もあります。せっかくの御意見ですので、もし可能なら検討されたいのではないかと感じます。ありがとうございます。

ほかには。お願いいたします。

○委員 資料4の意識調査の性別回答欄のところで、ちょっと気になるなと思っております。性別確認欄で、男性、女性、その他となっておりますが、「その他」という書き方をしてしまうと排除されているような感覚になってしまいますので、よければ「回答しない」と自由記入欄みたいなものをつけていただいて、四つの選択にいただけるとマイノリティーの方たちも回答しやすいのかなという印象でございます。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。これは特に最近よく見るアンケート形式ですね。とてもいい視点だと思いました。

オンラインで御参加の委員、お願いいたします。

○委員 ありがとうございます。

今の資料4のお話に続いてコメントさせていただければと思うんですが、外国籍の方々のことも考慮してアンケートを作るということも重要だと思いますし、あとは、初めに事務局の方から御説明があったかと思えますけれども、ターゲティングをするということがちょっと難しいというお話がありました。それもすごく理解できるんですけども、前回の有効回答のパーセンテージが、6割が無回答だったというところがすごく気になっていて、どれだけ有効な回答を増やして計画とかに反映させていくのかを考える必要があるのではないかなと思っております。

そういった意味で、例えば今回の調査票に、市民の方々に逆に「ターゲティングして調査することに対して何か御意見ありますか」とか「どういう調査方法だったら回答しやすいですか」とか、例えば「どういうインセンティブがあると回答がもっとできますか」とか問いかけて、こちらで多分無理だろうとか、こういう制限があるので難しいと思うというふうに決めるのではなく、市民の方に直接聞いて、その回答を基に、今後どう改善していくかというところを考えたほうがいいのではないかと思います。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。今の御意見は、任意の自由記入欄をちょっと工夫することで反映が可能ですか、どうでしょうか。

事務局から何かコメントありましたら。

○事務局（染井） この調査票の中でやれるかどうかは、また少し持ち帰らせていただきたいと思います。と思いますが、これとは別の毎年行っている調査で、市政アンケート調査というものをやっております。その中で市の行財政運営の在り方について聞くような設問もございます。そういうところも含めて、こういった行政が行う調査そもそもの在り方に対する御意見を聞くということも考えていきたいと感じました。ありがとうございます。

○萩島会長 御意見ありがとうございます。

○辰巳副会長 今の意識調査のサンプルについて確認をさせていただきたいんですけども、今回、統計的に必要とされるサンプル数ということで算出されて、市民4,500人を無作為に住基から

抽出するということですが、私もたくさんアンケートをやっていますけども、一般的に、郵送配布、郵送回収ですね。そうすると、普通にうまくいって大体2割前後の回収率になると思うんですよ。よほど関心があればもう少し高いときもありますけども。

そうすると、これは4,500人に送るということなのか、あるいは2割前後の歩留りを想定してもっとたくさんに送るということなのか、その辺がちょっと明確でないように思うんですけども、その辺りはいかがでしょうか。

○事務局（染井） ありがとうございます。結論としては、送る数が4,500ということでやっているんですけども、大体、回答率が50%弱、毎回いただいております、2,000件程度、これまでもこのサンプル数の中で御回答いただいているところでございます。

統計学上は、数百件程度の回答が得られれば市民全体の縮図として信頼できるというものはありつつ、そこはできるだけ精度を少しでも高めるところから、逆算して4,500の調査票をお送りしているというやり方でございます。

以上でございます。

○辰巳副会長 分かりました。どうもありがとうございます。

○萩島会長 それでは、はい。

○委員 すみません、このアンケート調査の言葉なんですけど、私は読んでいてすごく難しい言葉がたくさん使われているなという印象だったんです。無作為にたくさんの方たちに送られるのであれば、当然ながら、難しい言葉が理解できる方もいれば、そうではない方がいるという思いが私の中にあるので、できればもっと簡単な日本語というか、分かりやすい日本語みたいな感じの書き方をしてもらえらうほうが、もしかしたら理解していただける方が増えるのかなと。言葉が難しくて分からないから飛ばしてしまうということも起きるのかなと思ったりもするので、それは外国人のアンケートにも通ずることがあるかと思いますので、その辺も言葉を考えていただけたらうれしいなと思います。

○萩島会長 事務局からは何かありますか。

○事務局（染井） ありがとうございます。こちら、資料3のそれぞれの目標のところでお示しております「めざす姿」をベースにしまして、御指摘のとおり、行政文書のような表現もでございますので一般市民の方はなかなか分かりにくいところがあるかということで、できるだけかみ砕いた表現という工夫を我々としてもさせていただいた一旦の案として、今回このよう

な表現をさせていただいております。

また、今回、自由記述もございますので、恐らくそういった点も御意見が出てくるかなと思っておりますので、引き続き分かりやすい表現というところは努力していきたいと考えております。

以上でございます。

○萩島会長 それでは、ほかにいかがでしょうか、御意見。

○委員 議会の一般質問の機会もいただいて、総合計画がこれから見直しをされるという中で、去年だったと思うんですけど、市民に対する意識調査の在り方も考えていかなければいけませんねということで意見を申し上げたこともあったんですが、今日、この資料4の是非ということもいろいろあるんでしょうけど、この総合計画の進捗状況については市民意向で、そして、実施計画のほうで細かい成果指標みたいなのを設けてそこでと、要は段階を踏んでという話で。今日これを見ていて、よしあしの話をするときには、その下位計画の進捗というか、そこにどういう成果指標が盛り込まれるかがないと、正直言って、いいのか悪いのかという議論がしにくいのはやはりあると思うんですね。

なので、ちょっと危惧するのが、これが基本的に1回目の意識調査として出た後に、恐らく毎年というか毎回、調査ごとに基本的にはこの形になるのだと思うんですよ。そういう趣旨で今日お諮りいただいているのだと思っているんだけど、全体がそろった後にちょっと見直しが必要なのではないですかということは、引き続き、議会の一員としてもというのはあるんですが、申し上げる機会はしっかりいただきたいなど。

要は議論するのに今、十分な材料がここには揃っていないのではないかという感じがしていますので、そこは柔軟に構えておいていただいていたほうがいいのかということをお意見として申し上げておきたいと思います。

○萩島会長 ありがとうございます。

委員、お願いいたします。

○委員 この市民調査意識の質問はとても御苦労されていると思うんですが、これぐらいの8項目ぐらいなら確かに答えやすいなという数だとは思いますが。ただ、一方で、私自身が答える立場になったら、この下にある視点三つのそれぞれを見ていると、例えば、一つ目はよく分からないけど、二つ目はそうかなと思ったり、三つ目の視点は全然分からないということがあって、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」、どれにチェックするか、なかなか悩ましいなという現実も感じます。

そういう前提の下にこの８項目でやるとすれば、精度というんでしょうか、回答の精度がやや粗めというような聞き方になるのではないかと思いますし、もっと個別にきっちり聞きたいよねということになれば、この三つについてそれぞれ聞くほうが精度は上がるのではないかと思います。どちらがいいのかということは、何を得たいか、何のデータを得たいのかということがとても大事なのではないでしょうか。その前提の下にくくって八つの項目というのであれば、それは一つの方法だと思います。

○萩島会長 御意見ありがとうございます。やはり細かく聞か、粗く聞かということで得られる情報度が変わってくるということですよね。

この件につきまして、委員、お願いします。

○委員 前回の部会で、24項目派というふうな議論になっておりました。チェックの項目の数が御議論で出ていましたけれども、市民意識がスタート時点でどれくらいだということを測りましょうと。これが10%でもいいし15%でもいいし、始まりの数字はここから始まると。そこから10年かけて、様々細かいことをやりながら、10%が15%になればよし、10%が30%になればよしということなのかどうか。そこが私たちのもやっとするところなのだろうと思うので、そこは先ほどもおっしゃっていましたが、何をスタートに置いて、何を目的にやっていくのかというところかなと。

もう一つ、全然別の視点で、要望になるんですが、かなり細かな属性を1人当たりにデータとして取られるので、この素案にあります冊子の中に1項目として、ほんと「そう思う」パーセンテージが出るのとは別に、それぞれの属性なりで特徴的なデータが取れるのだったら、それはそれでしっかりと明らかにしていきながら細かい施策に対して生かしていくという2段階構えで。せっかく4,500のデータを取るの、そういったことはぜひとも工夫をしてほしいなと思いますし、最初の部分のお考えは確認をしたいなと思います。

○萩島会長 そうですね。貴重な御意見ありがとうございます。おっしゃるとおりで、特に同居の家族という部分がかかなり細かくありますので、高齢の方とか子どもとかですね。だから、回答した方がどんな人かによって項目の満足具合が違うとか、そういう分析が可能になると思うんですよね。ですので、計画の数字だけ、全体の数字だけ丸めて見るのではなく、その情報を使って分析するツールとして使うという位置づけですね。そこは非常に重要な視点かと思います。

ほかに、皆様、アンケート以外の原案の計画のほうでも御意見を自由にいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 この意識調査で、先ほどから質問の内容についての御意見がいろいろ出ているんですけど、前回の部会でもどなたかがお話ししていたんですが、このアンケートの結果をしっかり検証して、次の計画に反映できるような、ちょっと言葉は悪いですが、「使いものになる」データを取得しないと、取ったはいいが、その後、結果を検証しようにも使い勝手が悪いみたいなデータだったら本当にもったいないと思います。

とはいっても、事細かく、質問項目も多いと回答者の負担になって、「もうやめた」と回答しない人が出てくるかもしれませんが、一つのやり方として、例えばこの八つの質問項目にそれぞれ三つの視点があって、トータルすると24の質問が仮にあるとしても、それを必ずしも1人の人に24全部聞く必要はないと思います。統計学のやり方の中で、1人当たり8問ぐらいが限界とするなら、24の質問を3人に8問ずつ分けて質問し、それを後で合わせて整理するやり方もアンケートの取り方としてあるのではないかなと思います。

アンケート結果を後でしっかり検証するために必要なアンケートはしっかり取るとして、あとはその取り方を検討する、アンケートを受ける人の負担にならないような形で手法で必要なデータを取る工夫すれば良いと思います。その分、今以上に沢山のの人にアンケートをばらまかなくてはいけない、その分調査費用もかかるといったデメリットもあるかもしれないですけど、必要なデータをしっかり取るべき、あとは取り方を検討すればいいのかなと思います。

あともう1点、確認の意味でおたずねします。「市内にお住まいの4,500人を無作為に抽出した」とありますが、例えば地域的に偏りとか、住所についてもある区に偏ったりとか、そういったことはないようにされているのでしょうか。単純に福岡市全体で無作為に4,500人ではなくて、そこは地域的なバランスも踏まえて4,500人を抽出するという認識でよろしいのか、その点はちょっと確認をさせていただければと思います。

以上です。

○事務局（染井） ありがとうございます。今おっしゃったとおりでして、区ごとのバランスも含めて、しっかり調査対象が市全体の母集団の縮図になるようなサンプルの取り方をする形でございます。

以上でございます。

○委員 市民意識の調査票に関してなんですが、8項目ある中で、全部白丸で細かく聞いているものが三つずつになっているんですけど、これは一つのものに対して必ず三つではなくてもいいと思うんですが、スペースの問題なのか何なのか。先ほどもお話がありましたけれども、分かりづらい。もうちょっと分かりやすくするためには増やしてみてもいいのかなとか思うんですが、なぜ三つずつになっているんですか。

○事務局（染井） ありがとうございます。

こちらは計画の「めざす姿」と基本的には対応しておりまして、「めざす姿」が各目標に三つずつございます。それをそれぞれかみ砕いた表現にしたというところで、同じく三つずつという整理をしているところでございます。

○委員 私が個人的に入れてほしいのが、市民の方々がどういうふうに思っているのかなと知りたいこともあって、福岡市はスタートアップなんかもやっていて、チャンスもより多くあるまちであると思うんですけれども、国に先駆けてスタートアップの支援なんかもしているわけですから。では、福岡市はチャンスにあふれているまちだと市民の方々が感じているのか、また、あとは、今から格差というものが大きくなったりしていく懸念もある社会情勢の中で、格差をどういうふうに感じているのかとか、そうしたこともこの市民意識の調査で聞いてみていいのではないかなと。それがいろいろな施策に、教育にだってつながるでしょうし、いろいろな施策につながっていくと思うんですけれども、そこら辺はやはり増やせないんですかね、先ほどおっしゃられたとおりで。

○事務局（染井） こちらの調査自体は、基本計画の施策の効果について市民の皆様の実感を図るという意味で、基本計画とリンクしたような調査の仕方を取らせていただいております。一方で、先ほども少し市政アンケート調査という別の調査に触れましたし、外国籍の方を対象にしたアンケートも申しましたけれども、実はこれ以外にも福岡市が行う調査というのは様々ございます。そういったところも含めて、全体の中でいろいろな御意見を聞けるようにということは、引き続き工夫してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員 すみません、最後に。1の「誰もが自分らしく」のところで、先ほども他の委員から、分かりづらい、三つのうち一つは分かるけど二つ目はどうという御意見をいただいていたけれども、最後の「高齢者や障がい者が、福祉や介護などを受け、安心して暮らせる」とあります。ピンポイントで絞って聞くことは難しいとは思いますが、それだったらこういうのは変えないと、障がいのある方というのは障がいのある方でないと分からないので、みんな多分「わからない」になると思うんですね。高齢者の方だったら、家に高齢者の方が一緒に住まわれて何となく分かるかもしれないんですけれども、そういうのはもうちょっと考えてもいいのではないのかと思いますけれども、それもやっぱり変えられないでしょうか。

○事務局（染井） 非常にここは難しいところでございまして、やはりいろいろな御意見あろうかと思います。本当は、市民の皆様の御負担なども一旦置いておくと、前回24項目という御意

見もいただきましたけれども、そういうやり方をするとより詳細に取ることはできると。片や、そうしたときに、なかなか最後まで集中してしっかり選択をしていただけないという懸念もあるところの、ある種、最大公約数的に調査票をつくるとこうなりましたということでございまして、もちろん完璧なものではないところは承知してございます。

3 ページの自由記述欄に、あえてここに「前ページの回答理由」という言葉を入れさせていただきました。先ほど他の委員から御指摘あった点も、我々もまさにそのとおりだと思っております。視点のうちの一つは共感するけども二つはよく分からないとか、いろいろなパターンがあらうかと思います。そういう意味で、例えば「わからない」にチェックを入れた方が、視点のうちのこれが、例えば、今、委員からいただいたところでいきますと、障がいのある方への福祉のことは分からないからここは「わからない」にしたんだという御回答も出てくるのではないかと考えております。

そういう意味で、先ほど他の委員からも今後どうやっていくのかという御懸念もいただきましたけれども、今回、一旦というところですが、調査を1回やらせていただいて、恐らく自由記述の中で、そういったそもそも調査の分かりにくさみたいなところも出てくると考えております。これで1回やったらこの先もずっとこれでやるということではなくて、そういう在り方も含めて、今回、市民の皆様の御意見をいただきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○萩島会長 先に委員が手を挙げられていたということで、先にこちらに振ってよろしいでしょうか。

○委員 恐れ入ります。ありがとうございます。

私も意識調査について一言。私も先ほどのコメントに大賛成でございまして、福岡市に居住する外国人の方々を排除することにならないかと。別途、外国人を対象に意識調査アンケートを行うということでございましたけれども、4,500配布される中で福岡市に生活する外国人の割合を考えると、100人以上の方にこのアンケート調査が届く可能性がある。それを積極的に吸い上げない、きちんと吸い上げないということはあまりにももったいないと思いますし、この意識調査の意味がなくなるのではないかと思います。なので、全く同じ質問に対して外国人の方からきちんと回答を得るという努力が必要ではないかと思います。

会長が言ってくださったように、英語回答用のURLをつくれればいいことでございますし、あるいはこの意識調査のところに一言英語で書いて、お手数だけど自動翻訳機能を使って回答してくださいというだけでも、ここに生活している外国人であれば皆さん自動翻訳機能を駆使して生活しておられるので、それだけでも回答率は劇的にアップすると思いますので、ちょっとした工夫で回答を得られるのであれば、ぜひそうしていただきたいと思います。

そして、また先ほど御意見がございましたけれども、この属性にひもづいて意見を吸い上げることが可能なのであれば、続性の中に留学生、外国人という項目をつくって、そういった方々の意見、あるいはニーズというものが吸い上げられるような工夫があってもいいのではないかと思います。

以上でございます。

○萩島会長 ありがとうございます。

先にこちらの委員から、手を挙げておられたので。

○委員 先ほど来、意見が出ております意識調査に関してですが、どういう目的でこれを評価していくのかということ、前回の都市の成長部会でも申し上げた点でもあるんですけども、本編の資料3の11ページを改めて見ますと、市民意識のところに「(1)のめざす姿を市民にわかりやすい言葉で表し、まちづくりに関する市民意識を把握する」と書いてございます。

これに素直によると、この目標ごとにそれぞれ市民意識を取るという構成になっているとすれば、視点のところにめざす姿を書いて、そのめざす姿を見て、これを今どう思っているかということを素直に市民の方に問うことがいいのではないかと思います。

様々な項目をたくさん評価していく必要があるとか、あるいは項目ごとにどういった内容かが分かりにくいことを様々な視点から総合的に勘案するために、「視点」というソリューションが出てきたんだと思いますけれども、本編で書いてあるとおり、備考というか、11ページに書いてあるとおり、項目ごとにめざす姿を分かりやすく市民に示し、その適正さみたいなものをまず評価いただいた上で、10年なのか、その間の経過を取っていきながら、パーセンテージとして「そう思う」という方が増えていくかどうかを素直に評価すべきではないかと思います。

一方、各委員が懸念をされている、あるいは問題意識として持っていらっしゃるのは、この計画の進捗であったり政策の評価、これは分野別であったり実施計画のほうによるところが大きいので現時点では示さないということだろうと思います。ここは丁寧に、こういった形で個別の政策について評価をしていくのかというイメージをできるだけこの総合計画審議会でお示しをいただきつつ、基本計画自体はめざす姿に対して市民がどう思っていらっしゃるのかということを素直に評価されるのがよろしいのではないかと思いますので、申し添えたいと思います。

○萩島会長 ありがとうございます。

委員からも挙手があったということで。

○委員 私が思ったのが、これをこのまま使うとして、例えば1の「誰もが自分らしく、心豊か

に暮らせるまちづくりが進んでいると思いますか」で視点が三つありますよね。この視点の中で、自分がこれと思うやつに例えばレ点などを付けてもらって、これに対してどう思うかというのを答えていただく。この三つを全部総合的に評価というか考えると、これはこう思うけど、これはそう思わないというふうになって答えにくいと思うので、この中で例えば一つ、自分がこれだと思う視点を選んでいただいて、それに対してどう思うかを答えていただくようにすると、もう少し回答率というかですね。

本当に24項目あると、もしかしたら途中で「ん？」となる可能性はあると思うんですが、基本8項目の中で、視点三つの中で選んで、結果8個答えるようなアンケートにされると、もう少し回答率が増えるのではないかなと思いました。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。どういうふうに市民の御意見を吸い上げるかということでいろいろな案が出ておりますけれども、今すぐにそうしようとは多分事務局も言い難いと思うんですが、参考にさせていただくということでよろしいでしょうか。

委員から挙手があったと。

○委員 先ほどの方にすごく賛成なんですけれども、これで情報を得るということは、項目は増やしていいと思うんですよ。その中で、特に市民の方で、これは興味がある、これはこうしてもらいたいと思うことには必ず印をつけていただけると思うんですよ。だから、ちょっと言葉悪いんですけれども、ざっくりして、暮らせるまちづくり、心豊かにみたいなのだと、これではちょっと、何というのかな、悪いですけど、市民は私も含めて心に響かないアンケートだと思います。

視点で、例えば8番は、博多港や福岡空港の利便性は恐らく高い、私は姪浜に住んでいるから高いと思うけど、「海外とのビジネスが盛んで、働きやすく住みやすい」、いや、私の外国の友達に住みにくいと言っているしみたいなのがあるんで、たくさんあって興味のあることには絶対に印はつけていただけると思うので、そこはもうちょっと考えていただいて、これでやりますと今日は言われなくて、もうちょっと考えていただきたいと思います。

○萩島会長 ありがとうございます。

委員。

○委員 今、皆さんの言われたように、そうだと思います。これだけやっても何かあまりぴんとこないというのがあって、大項目と小項目に分けて、1から8の大項目が漠然としたインプレッションで、あと全部、興味があるところだけチェックするようにしたらいいのではないです

かね。

だから、結局20何項目にして、1から8の大項目にして、面倒くさい人は大項目だけチェックしてもらおうと。さらに何か言いたい人は小項目までチェックしてもらおうというふうにしないと、何か漠然とし過ぎているというのが私も皆さんと同じような印象です。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。ほかには御意見いかがですか。

お願いします。

○委員 とにかくしっかりとした回答が集まるようにということで、あまり質問数の負担があるのはよくないというのは前回の会議から言われていることかとは思いますが、選択的に回答したいところにするということは、結局、福岡市におられる皆さんは、回答を選ばなかったところについても市民として経験されることではあると思うので、それを外すというのは、様々な方の意見をしっかり取り入れることからすると、少し逆の方向に行ってしまうおそれもあると思います。私の意見はもともと24項目全部をやっていただくというものなんですけれども、そうしたことで、もし選択的にしてしまうと、そのところは逆に統計的には難しい、あまり網羅的に情報が得にくくなるのかと思うので、ここについては、主張したい部分は自由記述の中でできるだけ書いていただくことをお願いする。多分そうしたほうが、より有益に活用できる情報が集まるのかなととても思います。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。

ほかに。

○委員 調査票の質問は、どちらかというと、あるべきまちの姿みたいなものを表現していて、恐らくそれに対する達成度みたいなものを評価する形になっていくと思うんですけれども、日常的な市民の意識としては、ときにはちょっとネガティブな意見を持っていたり、あと、すぐ改善すべき点みたいなものを抱えていたり、あと、物すごくここには表現し切れないパーソナルな問題を抱えている方もいらっしゃると思っていて、そういった方のために自由記入欄はあると思うんです。本当に4,500人いれば、それこそ4,500通りの記入がここに来るかもしれない、そういったものはこういった形で集計されてこういった形で表現されていくのか、もし方向性みたいなものがあれば教えてください。

○事務局（染井） ありがとうございます。実は昨年度、市民の皆様の御意見を自由にいただく

市民意見募集という取組みをいたしました。その結果がお手元のファイルの参考資料の中にございまして、参考資料の5に、みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト実施報告書というものがございます。この中の7ページからになりますけれども、ここが自由記述の御意見で、このときには3,315件いただきました。まさにおっしゃるとおり、それぞれ全く異なる御意見をいただいております。それを一つ一つ読み込んでいって、こういったカテゴライズをして、こういう御意見が多かったということをまず統計的に出してございます。

その上で、また個別具体的に詳しい情報といいますか、御意見をいただいておりますので、そういったものを庁内で共有しまして、例えば、具体的にうちの近くの道路がこうなっていてとか、そういう具体的な御意見もいただいております。そういうものにも対応できるように庁内で共有を図ることを併せて行ったところでございまして、同じようなやり方になるかと考えてございます。

以上でございます。

○萩島会長 委員から挙手があったと聞いておりますけれども。

○委員 私はアンケートのほうじゃなくて修正案の基本計画の案のことで、もしよかったら一つ入れていただきたいと思うことがあったので発言させていただきます。

私は生活部会のメンバーですので都市成長の部会にはいなかったのここで発言させてもらいたいんですけども、目標5番と6番と8番には、いわゆるアジアのゲートウェイという言い方だったり、国際ビジネスの発展という形の表記がされているわけですが、私はマイノリティーという立場でビジネスもさせていたっている立場でいつも感じるのが、仕事をしていく上で、施設の話とか環境の話とプラスアルファで、意識の話、認識の話、ダイバーシティ&インクルージョンの意識がどこまで持てているのかということは、今後日本における、福岡における国際的なビジネスをやっていく上で重要な一つの観点だと思うんですね。ここが一つも盛り込まれていないと物すごく感じる場所があるので、ビジネスのフェーズにおいてもダイバーシティ&インクルージョンをしっかりと盛り込んでいくことはとても重要なのではないかと考えています。

実際、5番のところでは、ツーリズムのことも少し書かれているのではないかな、MICEのことが書かれているので、LGBTQツーリズムというマーケットが実際に海外では存在しています。全世界の旅行マーケットの約10%が当事者のマーケットだと言われていますが、日本はその10%が取り込めていないと言われていたりします。その活動がどこまでできているのかという話もそうですし、また、海外諸外国においては、契約に対する調達行動の中にしっかり人権の話が組み込まれていたりすることになります。サプライチェーンという話もよくございますが、その辺における制度においても、福岡市のほうでどこまでできるのかということが、

結構、今後グローバルビジネスに関しては重要になってくるのではないかと思いますので、その部分まで盛り込んでいただけるとすごくうれしいなと思います。

○萩島会長 ありがとうございます。そうですね、それぞれ部会に分かれて議論していましたので、自分が所属していないところにフィードバックをいただくのは非常にありがたいことかと思えます。そうした観点からでも、ほかに御意見はいかがでしょうか。

○委員 本編の5ページですが、もっと早い段階でお尋ねしていたほうがよかったんでしょうけれども、②の日本における役割の最後の文章に「地方創生の先導的な役割を担っていきます」とあります。地方創生は、ある意味、政策用語という側面があるかと思っていて、2014年から我が国でスタートして。今でも国のほうもデジタル田園とかいろいろなものと政策的な混在をしながら残っていると思うんですが、ここでは一般用語として地方創生という言葉を使っているのか、それとも政策用語として、例えば国の政策の方向性に資するという意味で使っているのか、それとも、むしろこの下に、分野別計画ではないでしょうけれども、まち・ひと・しごと創生総合戦略との接続性みたいなものがあるのか。この地方創生というものをどう捉えるかということが、向こう10年という単位で考えたときにあるのかと思っております、少しお尋ねできればと思います。

○萩島会長 事務局お願いします。

○事務局（染井） ありがとうございます。ここでは一般的な用語といいますか、まさに東京一極集中の是正というような視点で、それぞれの地方に魅力を生み出していく意味合いで入れているところがございます。

以上でございます。

○萩島会長 これは書きぶりを変えたほうがいいのかという……。

○委員 そういう判断があってもいいかなと個人的には思います。

○事務局（染井） ありがとうございます。まさに御指摘いただいたとおり、国の中でも表現が少しずつ変わってきているところでもございますので、陳腐化していかないようにという意味でも、少し表現を検討させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

○萩島会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 1 ページですけれども、四つ目のボツで、非常に細かいことかもしれませんが、アンダーラインを引いているところで「単独世帯の増加等を見据えた地域コミュニティの活性化」という文言がございます。読んでいて、単独世帯は増加するからコミュニティは縮まるというか、なっていくのではないかなと思うんですが、そういう中で「活性化」という言葉が来ているのがどういうことなんだろうかと感じますし、あと、今、単身高齢者が増えていくという意味合いもこの中に入っているのかなと思うんですけれども、その辺りの御説明をいただければと思います。

○事務局（染井） ありがとうございます。まさに、今、委員がおっしゃったとおりで、単身高齢世帯が今後増えていくことが将来人口推計の中でも見込まれております。そういった中で、17ページの施策3-1で「つながりと支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化」というものを掲げておりますけれども、ここに挙げておりますとおり、地域の中でのつながり、支え合いといったものをより強固なものにしていく必要があるという意味で「地域コミュニティの活性化」という言葉を入れさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○萩島会長 これは「単身高齢者」とするよりはちょっと広めにということで、この言葉になっているということですかね。

○事務局（染井） そうですね、限定的なことではなく、ここでは「単独世帯の増加等」と入れておりますけれども、実は後ろの区の目標の中では、子育て世帯が地域から孤立して、昔に比べるとといいますか、周囲の地域全体で子どもを育てていたような文化も薄まっているという課題も出てきております。そういったことも含めて、地域でもっとコミュニティを活発なものにしていくという意図でございます。

以上でございます。

○萩島会長 委員、お願いします。

○委員 5 ページです。先ほどの委員が②をおっしゃってくださったので、私は③を見て気がついたんですが、アジアにおける役割というところです。

都市デザイン、環境、上下水道云々と書いてあるので、これはかなり都市のハードウェア的なことに偏っている気がするんですが、御存じのように福岡市には福岡アジア美術館というのがあって、アジア美術をフォーカスしている美術館というのは世界に福岡にしかないという福岡の強みです。そういう意味では、アジアの和平につながっていく文化の発信というのは福岡

の役割の一つだと思っていますので、3行目に「文化的にも」とあるものの、この前半の部分にも文化的な役割、文化の交流だとか文化の発信というところも福岡は入れていくべきではないかと思います。

○萩島会長 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。もうちょっと議論の時間はありますか。まだ御発言されてない方で。

一応この基本計画のところはかなり理念的なことということで、既に皆さんからインプットいただいておりますし、具体的なことは実施計画や分野別の計画でということにはなっておりますけれども、今日の議論は議事録に残って、きちんとそこの議論にも反映されてお伝えできるかと思うので、お気づきの点がありましたら御意見いただければと思いますが。

どうぞ。

○委員 意識調査の件ですが、ちょっと細かいことなので発言するほどでもないかなと思ったんですけれども、質問を答える方の属性についてですが、私の周りの方で、福岡市に住んでいるけれども久留米に通っているとか糸島に通っている、大分に通っているという、お仕事は福岡市内ではないとか、通学している場所が福岡市内ではない、ほとんど福岡市で生活していないに等しい方も結構いらっしゃるんですね。交通網が便利で住みやすいというのもあると思うんですけれども、そういう方が紛れ込む可能性もあるのかなと思ひまして、職業のところだったり同居の家族の属性のところなどで、仕事の場所だったり学校の場所だったり、そういうことを聞くのもありかなと思ったりはしました。

あと、質問のところは、皆さんおっしゃったように、大きな質問と小さな細かいところと本当はどちらもあったほうがいいかなというのと、視点という言葉が私だったらちょっと分かりにくいかなと思ったので、目標だったり、目指しているということと、このアンケート調査が、今後、福岡市を市民の皆様のためによりよくしていくために御協力くださいというような文言がどこかにあったほうがいいのかなと感じました。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。

事務局からコメントありますか。

○事務局（染井） ありがとうございます。

まず1点目の属性のところに関しましては、先ほど、外国籍の方の留学生かどうかというような項目も入れてはどうかとか、いろいろな切り口があろうかと思います。その中でどこまで詳しくお尋ねするかということは、また引き続き考えさせていただきたいと思います。

というのが1点と、先ほど他の委員から、今すぐ調査をするのはちょっと考えてはどうかという御指摘もいただいたんですが、一方で、最終的に計画に盛り込んでいくというスケジュール的な問題もございまして、調査自体はぜひパブリック・コメントを行っているこの期間を使って——調査票を送って返ってきて、それを集計してというところで、おおむね2か月程度はかかる見込みでございまして、そこから逆算すると、このタイミングでぜひ調査は実施させていただきたいというところでございまして。

例えば先ほど委員からもいただきましたが、視点のところで関心があるものにチェックをしてお答えいただくとしたときに、そうなってくると、最終的には24項目をお答えいただくという形になってくるのかなという気も先ほど来お話を伺っていてしております。そういう意味では、今ここに視点として掲げている三つずつを質問の項目として24項を聞くというやり方も、前回の部会の方向性とは逆になってしまうんですが、あるのかなと今日の御意見をいただいていると感じたところでございまして、その辺り、ある程度方向性が見えたらなと思っているところでございまして。

以上でございまして。

○萩島会長 ありがとうございます。

委員。

○委員 私は資料3について伺いたいことがあります。資料3の総論のところ、例えばWell-beingとか、1ページ目でダイバーシティ&インクルージョンに関してちゃんと明記、定義しながら進めています。今度は、資料12ページから分野別目標の八つの目標のところにSDGsのゴールが出てきたので、つまり、前段ではSDGsに対してあまり内容として触れられてなくて、その後、八つの目標にSDGsをどういうふうに入れているかというところもちょっと分からなくて。

例えば16ページ、目標2のすべての子どもとかに関する目標に対しては、例えばSDGsのゴール10、人の不平等をなくすのところにもしかしたら子どもも入るのではないかと思ったりして。多分これ全部、ちゃんと基準があって選んだんですよね。どんな基準で選んだのかというところが1点。

あとは、SDGsは2030年までですよ。だから、これが10年ぐらいの基本計画の中で、SDGsのキーワードは、なくなったり、もしかしたら別のキーワードに進化するかもしれないので、その次のことになる場合は、このSDGs、この表現はそのまま残っていいと思いますけど、次はどうなるかというところも一言あったらいいのではないかなと個人的に思います。

お願いします。

○萩島会長 ありがとうございます。

事務局から何かコメントありますか。

○事務局（染井） SDGs と福岡市の各取り組みとの関係性については毎年少し整理をしておりまして、実際、SDGs のゴールの中で掲げているターゲットなどを見ながら、こういう分野に関わりがあるという整理をしているところですが、御指摘いただいたように、目標2 にゴール10も関わってくるのではないかとということもあろうかと思しますので、そこはまた確認をして整理をしたいと思います。ありがとうございます。

○委員 先ほど言い忘れたことが1点あったので、追加でコメントさせてください。

先ほどはグローバルビジネスという観点からお話しさせてもらっていましたが、地場の福岡の企業においても、私も当事者としてマイノリティーとして仕事をしている上で、かなり遅れているという変な言い方ですが、ダイバーシティが配慮された環境が整っている企業はほばないと感じております。ですので、LGBTQ当事者も含め、なかなか働きづらい環境がまだまだ続いているなとすごく感じるところであります。

また、企業の経営者、経営層の皆様、管理職の皆様も、LGBTQを含め、ダイバーシティ自体の認識というのはまだまだ進んでいない感じがとてもするんですね。なので、その部分においても、やはり都市の成長部会のところでは、この部分の観点はとても重要なポイントになってくるのではないかと思いますので、グローバルビジネスの観点でもそうですが、地場企業に対するところにおける意識の部分においても、この文言はぜひ入れていただきたいなと思います。

○萩島会長 ありがとうございます。

どうぞ。

○委員 意識調査のアンケートで、素案修正案のほうに数値が反映されてくると思うんですが、24項目に変更されるとして、決定ではないと思いますが、そういう市民の割合で、「そう思う（どちらかといえばそう思うを含む）」と書いてあるところを含まないようにして見たいなとちょっと思いました。「わからない（空欄を含む）」も、「わからない」と空欄の人は意思が若干違うのかなと思ひまして、どうせ出すのであれば、ちょっと分量が増えてしましますが、このアンケートのままここに記述するほうがいいのかと思いました。

○萩島会長 ありがとうございます。

お願いします。

○委員 ありがとうございます。

皆様の御意見を拝聴しておりまして一つ思いましたのは、アンケートのほうですけれども、面白いと思うんです。主観評価で点数づけしていくというのは面白いし、24項目に分けて定点的に見ていこうというところは分かるんですが、例えば世界の投資、都市への投資を呼び込むということに活用することを考えたときに、社会課題をどれだけ解決したのかということが投資家から問われると思うんですね。となると、例えばまちづくりが進んでいますかとか現状の状態を聞くよりは、社会課題の解決がその分野で進んだと思いますかというような問いかけといえますか、どれぐらい改善が進んでいるんでしょうという問いかけの仕方もあるのかなと思います。

それとあとは、客観的なK P Iは実施計画のほうで取られて進捗管理されるということなので、客観指標と主観指標の差分が大きいところを改善していくのか、主観だけの改善を目指すのか、その辺りの方向性はどのようにお考えかを教えてください。

○事務局（染井） まず1点、先ほど来、評価の在り方というところは皆様御指摘いただいているところでございます。ありがとうございます。

少し補足しますと、客観指標に限らず、実施計画の中で、また、個別の分野で主観的な指標もまず出てくるかとは思っております。その点は1点補足でございます。

その上で、例えばどれか一つの目標の初期値を取って、例えば2年目に数字が下がりましたといったときに、その下にかなり多くの事業ごとにぶら下がった指標が出てまいります。その中で、ここの指標は上がっているけれども、ここは下がっているというものが当然出てくると思っておりまして、そうすると、この全体の目標の市民の実感のところが悪化している要因として、この事業が実はうまくいっていないのではないかというような要因の分析が可能になるかなということで考えてございます。

目標ごとに市民の皆様の意識を聞くということ自体が今回初めてのチャレンジではありますので、想定にはなりますけれども、そういった形で、どの事業にどういうてこ入れをする必要があるかということが評価の中で見えてくるのではないかと想定でございます。

以上でございます。

○萩島会長 オンラインの委員から手が挙がっていますので、ちょっとここでお聞きしましょうか。

○委員 今、主観の評価をその後、目的含めてどうするかというお話があったので、やり方だけお話しします。

私はギャラップという世界のWell-being含めた評価などのアドバイザーをしています。こういうものの使い方ですけども、内閣府もアドバイスしながら仕事をしていますけど、主観でも満足度を含めて低い人たちが一定いるというのが、満足度、Well-being、幸福度を含めて総じて日本のランクが低い理由なんですね。低い満足度を上げること自体が政策の目標になります。それがある程度減らせれば、平均的には一気にランクは上がるんですね。ランクを上げることが目的ではなくて、実際の政策の理解、または、それが達成できる目標を上げることが目的であります。

そういう意味で、主観であるけれども、どういう層が総じて低いスコアをつけているかという分析自体が次の政策の目標になります。分析のやり方としては、平均値だけではなくて、分散を見ると。分散の値が特定の地域で低いのか、特定の社会層で低いのか、それはなぜかということを考えるやり方をします。

総じて、先ほどまでの多くの議論で、このアンケートのやり方では不十分という議論はあったんですけども、あくまで多くやるアンケートの一つかなと思っています。そういう意味では、すべてを捉えることはまず無理ですけども、個々の政策に対する大枠の、かなり特定の施策に根づきはしないですけども、ある一定、特に低い層を見ていくというのはこういうことの目的になります。

以上です。ありがとうございます。

○萩島会長 ありがとうございます。

最終的な政策の目標は、市民の満足度を上げる、Well-beingだということで、それに直接リンクしたことを聞いてみようという趣旨だということですね。

主観ではあるけど、かなり注意深くデザインをすればというか、こういう文面とかアンケート調査票のデザインをすれば、それなりに統計的にはいろいろな情報が得られるというお話だったかと思います。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員 補足あるいは感想のコメントです。本文およびアンケートに関連して一つずつ申し上げます。

本文について、「基本計画は方向性を示す文書」という御説明を頂戴しましたので、10次計画の方向性を一言で言えばコレだというキャッチフレーズ—8個の目標を束ねるような一つのキーワードがあれば、一読者としてわかりやすい。キーワードの候補は、本文2ページにありますように、「生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環」とか、オレンジで強調されている「住みたい、行きたい、働きたい アジアの交流拠点都市・福岡」なのでしょう。冒頭の1ページにキャッチフレーズがあると、読者の方に気を引いてもらえるのではないかと感じま

した。

アンケートについて、分析者としての視点で言うと、やっぱり満足度が高い、あるいは不満度が高い、それがなぜかということを知りたい。24項聞くのではないかと思います。なぜ市民の方は、そう感じているのか、それを知るのがアンケートの大事な目的だと思います。

以上です。特に事務局からの回答は必要ないです。

○萩島会長 ありがとうございます。

ほかには。

○辰巳副会長 先ほどからアンケートに対する御意見がたくさん出ておりまして、今、事務局も多分困っていらっしゃると思うんですが、24項目そのまま聞いたほうがいいのではないかとこの御意見が今日はたくさん出ております。そうした中で、今日を逃すとこのアンケートに関する議論をする場がないということで、今日、24項目にするのか8項目にするのかを決めないといけないと思うんですけれども、その辺りをぜひ会長のほうに少しハンドリングしていただければと思います。

私が今日御意見をお伺いした範囲では、もともと事務局の原案も24項目ということもありましたし、24項目で聞いたほうが、これは当てはまるけどこれは当てはまらないみたいな問題にも対応できるということで、皆さんの御意見を聞く限り、24項目のほうが少しいいのかなと思うんですけれども、どうしても、やっぱりそれでも8項目のほうがいいんだということであれば、またちょっと議論をしていただければと思います。

一つ私が思っているのは、先ほど事務局から、4,500の抽出に対して通常50%ぐらい回収があるということで、私が普段関わっているいろいろなアンケート調査はアンケート項目数がもっと多いんですね。三、四十項目ぐらいと行政関係のアンケートは多いんですけれども、それで大体20%ぐらいです。今回は項目が非常に少ないので恐らく50%ぐらい。そうすると、これは24項目にしてもかなりの回収率になるだろうなと。そうすると、統計的に十分満足できる数の回収ができるだろうなと思いますので、そういった面からも、24項目全部聞いても問題ないのかなと私は思っています。

ということで、もう残り15分ぐらいしかありませんので、ぜひ24項目にするのか8項目にするのか、これは今日皆様で御議論していただければと思います。よろしくお願いいたします。

○萩島会長 ありがとうございます。

これは、もう24項目がいいと。個別に、どういう点に市民の方が不満もしくは満足かということを知ることが非常に重要だという御意見でしたので、何とかこのアンケート調査票の文面を分かりやすく、つまり、市民の方が途中でやめてしまわないように、24問であっても、なる

べく簡潔に分かりやすい調査票をつくるというふうな工夫でやることがあり得るかなと思いました。24と8の間はなかなか難しいですね。これをまとめるかどうかとか、そういうことを議論するのもまた大変でしょうし。

あとは属性ですね。回答する方の属性を、いくつかコメントいただいたように、どんな方がどんな意識を持っているかということがもっと解像度が上がるように聞く。それはあまり質問を増やさずにできるのであれば、そこは改善の余地があって非常にいいのかなとも感じております。

今日配られたものは、多分、事前にアンケートのプロの委員にアドバイスを聞いたとも聞いていますけれども、改めて、もし24問ということだと、再度そうやって統計調査の専門家からも見てもらって、市民が分かりやすく、なるべく答えやすい形にブラッシュアップすることが必要かなと感じている次第です。

事務局から補足でコメントがあれば。

○事務局(染井) ありがとうございます。今、辰巳副会長からもいただきましたけど、前回の部会でも、私どもの案の中でも24項目案をお示ししたぐらいですので、我々もそれは当然選択肢にあると思ってございましたので、今そういった方向で皆様いただいたのかなと。詳細はまた、今日この場で細かい仕様までは固められないと思いますけれども、案をまたおつくりして、会長、副会長、また、両部会の部会長、副部会長に御相談して、調査のやり方を固めさせていただければと考えてございます。

以上でございます。

○萩島会長 ありがとうございます。会もそろそろ時間の終わりが見えてきましたので、まだ御意見があるかと思うんですけれども、一応本日の議論はここまでとしたいと思います。本日、アンケート以外にもいろいろまた御意見いただきまして、できる範囲で、パブコメまでの間に文言を修正できるものはして、そこは辰巳副会長と二つの部会の部会長、副部会長との間で調整させていただければと考えております。

このような整理で、取りあえず本日のところは一旦ちょっと。詳細はまた修正が入ることになりますが、パブコメの進みたいと思うんですけれども、皆様いかがでしょうか。同意をしていただけますでしょうか。本日の意見をなるべく反映した形で、市民の皆様の御意見をさらに聞くと。そして、また10月に改めて議論仕切り直しとなるかと思います。

〔「異議なし」の声あり〕

○萩島会長 それでは、ここまでで本日の議題については終わりということで、事務局にお返しします。

3 閉会

○事務局（高橋） 萩島会長、ありがとうございました。

閉会に当たりまして、総務企画局長の龍より御挨拶申し上げます。

○龍局長 総務企画局長の龍でございます。閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、御多忙の折、また、大変暑い中、長時間にわたりお時間をいただきまして心より御礼を申し上げます。4月の総会からこれまで皆様には精力的に御審議いただき、本日、原案という形で取りまとめをしていただきました。萩島会長、辰巳副会長、両部会の部会長、副部会長をはじめ、委員の皆様に改めて心より厚く御礼を申し上げます。

今後につきましては、パブリック・コメントで市民の皆さんの御意見をいただいた後、10月に部会、11月に総会を開催し、計画の完成を目指してまいりたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、どうぞ引き続き御助力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本日も、お忙しい中、誠にありがとうございました。

○事務局（高橋） 以上をもちまして福岡市総合計画審議会総会を閉会いたします。

次の部会は10月中旬を予定しております。近日中に日程調整の御連絡をいたします。

本日の資料につきましては、机上にそのまま置いておいていただければ、事務局でファイルに綴じ込み、次回の審議会で御用意いたします。資料を持ち帰られる場合や郵送を御希望される方は近くの職員にお声かけください。

それでは、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。

閉 会